

海外生活 エッセー

パリ事務所

農業をエンタメ化!? パリで農業国際見本市開催

(一財)自治体国際化協会パリ事務所 次長 山城 充 (東京都派遣)

➔ 農業大国フランスで見本市開催

2022年2月26日から3月6日まで、パリのポルトドベルサイユにおいて、農業国際見本市 (Salon International de l'Agriculture) が開催されました。この見本市は毎年恒例のイベントですが、2021年はコロナ禍で開催が見送られたため、今年は2年ぶりの開催になります。

国土の50%以上が農用地であり、農業生産額はEU全体の18% (2019年) を占めるなど世界有数の農業大国として知られるフランスでは、この農業国際見本市は長い歴史を持つ一大イベントです。1964年の創設から今回で58回目を迎えるこのイベントには毎回多くの来場者が足を運び、2014年には過去最高の70万人も



野菜や果物でできたエッフェル塔

の人々が訪れました。また、例年多くの政治家が訪れるなど政治的にも重要なイベントであり、今春に大統領選を控えるマクロン大統領も初日の開幕式に出席し、2時間にわたって農業関係者と懇談しました。

➔ エンタメ化した農業を楽しむ

農業の見本市と聞くと、なんとなく地味な土臭いイベントを想像してしまう方も多いかもかもしれませんが、実際

に会場に行ってみればそのイメージは大きく覆されるでしょう。農業見本市といっても、単に農作物が並べられているわけではなく、会場内のブースではワインやチーズ、蜂蜜やチョコレートなどフランス各地の名産品はもとより、スイスのチーズやイタリアのハムなど海外からの食材も販売されています。また、食事コーナーも設けられており、会場ではワインやビールを片手に優雅にランチを楽しんだり、アイスクリーム片手にブースを回る人たちの姿があちこちで見られました。

見本市では家族連れも多く見かけられましたが、そのお目当ての一つは会場内の動物たちです。牛、馬、羊、ウサギなどが間近で見られ、その一部には触れることもできるので、ちょっとした触れ合い動物園のようになっています。

この他にもクイズコーナーや体験コーナーなど、大人も子どもも楽しみながら農業や環境問題などについて考えることのできる企画が盛りだくさんでした。うまく農業をエンタメ化し、毎年多くの人々を楽しませている国際農業見本市は、農業大国フランスの明るい未来の実現のため、大きな役割を果たしているように感じられました。



動物たちと触れ合えて子どもたちも楽しそう